

大学生の運動部選択行動に及ぼす運動種目イメージの影響について:
金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員を対象に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田嶋, 孝弘 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36079

大学生の運動部選択行動に及ぼす運動種目イメージの影響について ～金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員を対象に～

スポーツ科学課程 98-235 田嶋 孝弘

1、動機及び目的

大学生は、学校内での正課体育や体育会運動部、サークル、同好会といった課外活動、学外でのクラブやサークルなど数多く存在している様々なタイプとレベルのスポーツ活動の中から、どのような目的のために、どのような種目を、どの程度行うか、また、このために集団参加を行うか等の意思決定の連続により、最も適したスポーツ活動を選択し参加している。そのような中で筆者は、意思決定の連続により最も適したスポーツ活動だと判断した金沢大学硬式野球部を選択した。「野球」が行えるという点では、金沢大学準硬式野球部というものも存在していたが、筆者はそれを筆者の意思決定に沿わないスポーツ活動であると判断したため選択しなかった。しかし実際には、金沢大学準硬式野球部は筆者の意思決定に沿わないものではなく、ただ筆者が「準硬式野球」という運動種目に対するイメージから創りあげられた、金沢大学準硬式野球部に対する“間違ったイメージ”を筆者の意思決定に沿わないものとして判断していただけであることに気づいた。そして、それは筆者だけのことに限らず、ほかの金沢大学硬式野球部員も準硬式野球部に対して、また金沢大学準硬式野球部員も硬式野球部に対して、それぞれの運動種目に対するイメージから創りあげられた、“間違ったイメージ”により、それらを適したスポーツ活動として選択しなかったのではないかと考えたことが動機である。

そこで本研究では、金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の準硬式野球部と硬式野球部への選択行動における、それぞれの運動種目に対するイメージの関与について検討することを目的とする。

2、本研究の課題

本研究の目的のために先行研究を検討した結果、以下の3点を本研究の課題とした。

- 1) 金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の入部動機、部活動の目的、選択拒否理由といった部活動に対する意識の比較から、準硬式野球部員と硬式野球部員が運動部選択時に、準硬式野球部、硬式野球部をどのようなものと考え、把握していたかといった捉え方の差を明らかにする。
- 2) 金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の部活動に対する評価の比較から、準硬式野球部と硬式野球部の雰囲気や規範や体質といったものの差を明らかにする。
- 3) 金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージの比較より、準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージの差を明らかにする。

3、研究方法

本研究では、金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の運動部選択時における準硬式野球部、硬式野球部に対する捉え方の差、準硬式野球部と硬式野球部の雰囲気、規範、体質などの差、準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージの差を統計的に検討していくため、アンケート調査を実施した。また、アンケートの質問項目を作成するために予備調査を実施した。

① 調査対象 金沢大学における教育学部準硬式野球部、法文経済学部準硬式野球部、医学部準硬式野球部、工学部準硬式野球部（以後、準硬式野球部）に所属する計 68 名（以後、準硬式野球部員）と金沢大学における硬式野球部（以後、硬式野球部）に所属する 35 名（以後、硬式野球部員）を対象とした。

② 調査期間 平成 13 年 11 月 12 日～平成 13 年 11 月 22 日

③ 調査内容 入部動機、部活動を行う目的、選択拒否理由といった「部活動に対する意識」、部活動

の評価といった「部活動に対する評価」、「準硬式野球」に対するイメージ、「硬式野球」に対するイメージといった「イメージ」の3つの観点から成り立っている。「部活動に対する意識」、「部活動に対する評価」については、予備調査の結果より作成した質問項目を「全くあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「少しあてはまる」、「よくあてはまる」の4段階尺度により回答してもらった。「イメージ」については、Semantic Differential法(SD法)を引用し、質問項目を「Aだと思う」、「ややAだと思う」、「どちらでもない」、「ややBだと思う」、「Bだと思う」の5段階尺度により回答してもらった。

④ 分析方法 「部活動に対する意識」、「部活動に対する評価」の項目については、「全くあてはまらない」に1点、「あまりあてはまらない」に2点、「少しあてはまる」に3点、「よくあてはまる」に4点を与え、「イメージ」の項目については、「Aだと思う」に1点、「ややAだと思う」に2点、「どちらでもない」に3点、「ややBだと思う」に4点、「Bだと思う」に5点を与え、得点化し、平均尺度得点を求めた。また、準硬式野球部員と硬式野球部員の「部活動に対する意識」、「部活動に対する評価」、「イメージ」を比較するために、それらの平均尺度得点を比較した。なお「部活動に対する意識」、「部活動に対する評価」の比較は対応のないt検定、「イメージ」の比較は対応のあるt検定によって行い、有意水準 $\alpha=0.05$ とした。

5、結果及び考察

「部活動に対する意識」

① 入部動機 準硬式野球部員、硬式野球部員の間で、「先輩・友人に勧誘されたから」、「雰囲気よかったから」、「健康のため」の項目の平均尺度得点において有意差が見られ準硬式野球部員が硬式野球部員よりも高い値を示したことから、準硬式野球部員は準硬式野球部を硬式野球部よりも入りやすく、健康になれることを期待できる部であると捉えていると考えられる。また準硬式野球部員、硬式野球部員の間で、「いい結果を出すため」の項目の平均尺度得点において有意差が見られ硬式野球部員が準硬式野球部員よりも高い値を示したことから、硬式野球部員は硬式野球部を準硬式野球部よりも好結果を残せることを期待できる部であると捉えていると考えられる。

② 部活動を行う目的 準硬式野球部員、硬式野球部員の間で、「知識・技術の向上」、「試合に勝つ」、「将来に役立たせる」の項目の平均尺度得点において有意差が見られ硬式野球部員が準硬式野球部員よりも高い値を示したことから、硬式野球部員は硬式野球部を準硬式野球部よりも野球の知識や技術の向上、試合に勝つこと、将来の自分の職業や生活に生かすことが望める部であると捉えていると考えられる。

③ 選択拒否理由 準硬式野球部員と硬式野球部員の間で「上下関係が厳しいから」、「勧誘がなかったから」、「練習が厳しいから」、「雰囲気がよくないから」、「大学生活と両立できないから」の項目の平均尺度得点において有意差が見られ準硬式野球部員が硬式野球部員よりも高い値を示したことから、準硬式野球部員は硬式野球部を準硬式野球部よりも上下関係や練習が厳しいため部活動以外の活動と両立できない部であり、勧誘がなく雰囲気がよくないことから、とても入りにくい閉鎖的な部であると捉えていると考えられる。また、準硬式野球部員と硬式野球部員の間で硬式野球部員が、「中途半端だから」、「本格的ではないから」、「物足りないから」、「存在感がないから」、「魅力を感じないから」、「目指しているものが違うから」の項目の平均尺度得点において有意差が見られ硬式野球部員が準硬式野球部員よりも高い値を示したことから、硬式野球部員は準硬式野球部を中途半端で本格的でなく存在感がないためやりがいがなく、自分たちと目指しているものが違うため魅力を感じない部であると捉えていると考えられる。

「部活動に対する評価」

準硬式野球部員、硬式野球部員の間で「人間関係」の項目の平均尺度得点において有意差が見られただけであり、全体的には準硬式野球部員と硬式野球部員の部活動に対する満足している点がほぼ同じ傾

向にあるといえる。これは、準硬式野球部員と硬式野球部員の部活動に対する評価がほぼ同じ傾向にあるということであり、準硬式野球部と硬式野球部の雰囲気や規範や体質といったものにはほとんど差はなく同じ傾向にあると考えられる。また、予備調査の結果より準硬式野球部と硬式野球部の競技レベル、目標も同じ傾向にあると考えられる。

「イメージ」

① **準硬式野球部員が持つイメージ** 準硬式野球部員が持つ「準硬式野球」と「硬式野球」に対するイメージを比較したところ、「大きいー小さい」、「望みのあるー望みのない」、「道徳的なー不道徳的な」、「ださいーかっこいい」以外の全ての項目の平均尺度得点で有意差が見られた。有意差の見られた項目について性質や強度の検討を加えると性質の異なる言葉（反対の意味を持つ1対の言葉）が選択された項目は、「苦しいー楽しい」、「重いー軽い」、「開放的なー閉鎖的な」、「簡単なー困難な」、「古いー新しい」、「厳しいーやさしい」、「権威的なー民主的な」、「大規模なー小規模な」、「鋭いー鈍い」、「未熟なー成熟した」、「やわらかいーかたい」、「派手なー地味な」、「遅いー速い」であり「準硬式野球」に対するイメージが楽しい、軽い、開放的な、簡単な、新しい、やさしい、民主的、小規模な、鈍い、未熟な、やわらかい、地味な、遅いに傾いているのに対して「硬式野球」に対するイメージは苦しい、重い、閉鎖的な、困難な、古い、厳しい、権威的、大規模な、鋭い、成熟した、かたい、派手な、速いに傾いていることがわかった。また強度に関して著しい差（性質は共通だが平均尺度得点の差0.8以上）の見られた項目は、「明るいー暗い」、「激しいー静かな」であり「準硬式野球」に対するイメージの方が、より明るい、「硬式野球」に対するイメージの方が、より激しいといった反応を示していることがわかった。

② **硬式野球部員が持つイメージ** 硬式野球部員が持つ「準硬式野球」と「硬式野球」に対するイメージを比較したところ、「開放的なー閉鎖的な」、「道徳的なー不道徳的な」以外の全ての項目の平均尺度得点で有意差が見られた。有意差の見られた項目について性質や強度の検討を加えると性質の異なる言葉が選択された項目は、「明るいー暗い」、「大きいー小さい」、「うれしいー悲しい」、「道徳的なー不道徳的な」以外の全ての項目であり「準硬式野球」に対するイメージが楽しい、消極的、軽い、静かな、むなし、簡単な、新しい、身分主義、浅い、やさしい、低い、民主的、望みのない、小規模な、鈍い、悪い、不調和した、未熟な、弱い、やわらかい、地味な、不活発な、遅い、ださいに傾いているのに対して「硬式野球」に対するイメージは、苦しい、積極的、重い、激しい、充実した、困難な、古い、能力主義、深い、厳しい、高い、権威的、望みのある、大規模な、鋭い、良い、調和した、成熟した、強い、かたい、派手な、活発な、速い、かっこいいに傾いていることがわかった。また強度に関して著しい差が見られた項目は、「明るいー暗い」だけであり「硬式野球」に対するイメージの方が、より明るいといった反応を示していることがわかった。

以上すべての結果を比較、検討してみる。準硬式野球部員は準硬式野球部を硬式野球部よりも入りやすく、健康になれることを期待できる部であると捉えており、硬式野球部を準硬式野球部よりも勧誘がなく、雰囲気がよくなく、とても入りにくい部であり、上下関係や練習が厳しいため部活動以外の活動と両立できない部であると捉えていることが考えられ、硬式野球部員は硬式野球部を準硬式野球部よりも好結果を残せることを期待できる部であり、野球の知識や技術の向上、試合に勝つこと、将来の自分の職業や生活に生かすことが望める部であると捉えており、準硬式野球部を硬式野球部よりも中途半端で本格的でなく存在感がないためやりがいがなく、自分と目指しているものが違うため魅力を感じない部であると捉えていると考えられる。そしてそれは準硬式野球部と硬式野球部の雰囲気、規範、体質、競技レベル、目標が同じ傾向にあると考えられることから、準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージの性質の相違や強度の差が影響していることが考えられる。そこで、準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイ

イメージの性質の相違や強度の差を見てみると、準硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージは、性質の相違から見れば、「準硬式野球」に対するイメージが、楽しい、軽い、開放的な、簡単な、新しい、やさしい、民主的、小規模な、鈍い、未熟な、やわらかい、地味な、遅いに傾いているのに対して、「硬式野球」に対するイメージは、苦しい、重い、閉鎖的な、困難な、古い、厳しい、権威的、大規模な、鋭い、成熟した、かたい、派手な、速いに傾いており、また、強度の差から見れば、「準硬式野球」に対するイメージの方が、より明るい、「硬式野球」に対するイメージの方が、より激しいといった反応を示していることがわかる。また、硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージは、性質の相違から見れば、「準硬式野球」に対するイメージが、楽しい、消極的、軽い、静かな、むなししい、簡単な、新しい、身分主義、浅い、やさしい、低い、民主的、望みのない、小規模な、鈍い、悪い、不調和した、未熟な、弱い、やわらかい、地味な、不活発な、遅い、ださいに傾いているのに対して、「硬式野球」に対するイメージは、苦しい、積極的、重い、激しい、充実した、困難な、古い、能力主義、深い、厳しい、高い、権威的、望みのある、大規模な、鋭い、良い、調和した、成熟した、強い、かたい、派手な、活発な、速い、かっこいいに傾いており、また、強度の差から見れば、「硬式野球」に対するイメージの方が、より明るいといった反応を示していることがわかる。つまり、そのような準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージの性質の相違や強度の差が、本研究の結果からだけではいえない部分もあるが、準硬式野球部と硬式野球部に対するイメージの差となり、準硬式野球部員と硬式野球部員の運動部選択時における準硬式野球部、硬式野球部に対する捉え方の差になったものと考えられる。

6、結論

本研究の目的は、金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の準硬式野球部と硬式野球部への選択行動における、それぞれの運動種目に対するイメージの関与について検討することであった。そこで、本研究の課題を金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の運動部選択時における準硬式野球部、硬式野球部に対する捉え方の差、準硬式野球部と硬式野球部の雰囲気、規範、体質などの差、準硬式野球部員と硬式野球部員の「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージの差を明らかにし、それらの結果を比較、検討したところ、以下のような結論が得られた。

- ・ 本研究の結果からだけでは考察が困難な点も多少見られるが、全体的には、準硬式野球部員と硬式野球部員は運動部選択時に、準硬式野球部と硬式野球部の雰囲気、規範、体質、競技レベル、目標といったものよりも、「準硬式野球」、「硬式野球」に対するイメージにより、準硬式野球部、硬式野球部を捉えて選択していると考えられる。すなわち、金沢大学における準硬式野球部員と硬式野球部員の準硬式野球部と硬式野球部への選択行動に、それぞれの運動種目に対するイメージは大きく関与しているものと考えられる。

<参考文献>

- 1) 平田 忠、「スポーツイメージに関する研究(1)―日本人大学生におけるスポーツのイメージ―」、仙台大学紀要31(2)、pp47～58、2000年
- 2) 富永 健一、「意思決定の社会学理論―行動課程の分析―」、社会学評論8-3、pp52～84、1958年
- 3) 富永 健一他、「消費行動の社会的分析―家計調査による数量的研究―」、社会学評論19-1、pp18～68、1968年
- 4) 田中 靖政、「記号行動論」、共立出版株式会社、1970年